

■徳川武定 海軍造船技術者。潜水艦などで海外の学者からも尊敬され、大研究所を統率、膨大な蔵書を遺した。

とくがわたけさだ

初の対等条約1888＝ 民部大輔徳川昭武の長男に生まれる。_徳川斉昭の孫、塵喜の甥にあたる。

帝国憲法発布1889＝ 1歳：

日清戦争始・1894＝ 6歳：

八幡製鉄始・1897＝ 9歳：

教科書疑獄・1902＝14歳：東京高等師範付属小学校卒業。

日露戦争終・1905＝17歳：

満鉄発足・・・1906＝18歳：

韓国反日暴動1907＝19歳：東京高等師範附属中学校卒業して、第八高等学校に進み、

明治天皇没・1912＝24歳：

21ヶ条要求・1915＝27歳：

民本主義・・・1916＝28歳：_東京帝国大学工科大学造船学科を卒業、海軍造船中技士(のちの造船中尉)となる。

呉海軍工廠で潜水艦の臓装工事に従事、

_第一次世界大戦直後に、自費で約1ヵ年ロンドン大学に学び、この間、ドイツなどから多数の潜水艦資料を集め、この整理と報告作業が敗戦まで行われる。

大暴落・・・1920＝32歳：

原敬首相暗殺1921＝33歳：

_平賀謙の部下となり、*造船大尉として海軍艦政本部で八八艦隊計画最後の巨大戦艦の基本図の計算と製図を行なった。

_以来、長く海軍技術研究所に勤務、

護憲三派圧勝1924＝36歳：

_単なる造船学者でなく、視野広く着想は抜群で、築地の魚河岸から早朝新鮮な魚を入手し、それに基づいて船型試験用の模型を作り船体抵抗の実験をし、多年にわたり潜水艦の耐圧船体の研究を行い、その成果の一部は船体の外側フレームの採用となり、

満州事変・・・1931＝43歳：

国際連盟脱退1933＝45歳：*世界に類のない優秀潜水艦の建造が開始され、

_耐圧強度の幾多の研究の成果が造船協会で発表されて、海外の学者にも尊敬される。

日中戦争始・1937＝49歳：

_のち、目黒区三田に世界有数の大技術研究所を平賀所長のもとで完成して築地より移し、

日米開戦・・・1941＝53歳：

・・・1942＝54歳：

*技術中将として同研究所長となり、部下1万人をこえる大所長として研究と技術行政に貢献。

_単に研究だけではなく、多くの文献を含む莫大な蔵書でも知られ、研究所の千葉県松戸の城趾内の戸定館には工学関係のみならず、戦前日本には稀有のアフリカの稀本を集めたアフリカ図書館の一棟があり、またこの前後、多数の蔵書を藤原工業大学に寄贈し、のちの慶応義塾大学工学部の基礎となる。

敗戦・・・1945＝57歳：

*予備役となる。

_水難救済会の救命艇の設計でも著名であり、戦後は一時期丸善株式会社の顧問として永井荷風を研究、その技術者らしい報告は{学鑑}に連載されて注目され、また「ペンを科学する」と題するペン先の連動を詳しく研究した論文などもある。また膨大な蔵書は戦後に天理大学に譲られた。

独立回復・・・1951＝63歳：

マーデー事件・1952＝64歳：

_新設の防衛庁技術研究所の嘱託顧問となり、海上自衛隊と川崎重工業の指導を行なう。

軍艦設計者の平賀謙とは特に親交あり、兄弟のごとき交流であり、

国連加盟・・・1956＝68歳：

なべ底不況・1957＝69歳：

東京府中市の多磨墓地の平賀の墓側に門下生一同の齎金でつくられた墓碑銘を撰文。

没した。

遺体は遺言により病巣の解剖に付された。